

第33回

森とのふれあい

7月30日(日曜日)「森林教室、講演及び体験」を草木染めの森陽子先生を迎え、講演及び体験を実施しました。

当日は晴天に恵まれ染め物日和?。参加者は15名でしたが染め方の説明後、カツラ、イタヤ、ホザ



キシモチ組と3グループに別れ染液づくりから始めました。

1時間程たつと染液が出来上がり、冬々配られた木綿(ネッカチーフ)を染める時、額を汗してどんな色に染まるか期待を胸に染液に浸けて、いよいよ媒染液をかけて出来上がり。

期待していた以上の出来上がりに全員満足していた様子でした。

最後にグループ毎に自分の作品を手に記念写真を撮り楽しい雰囲気の中で無事終了しました。

森とのふれあい

草木染め体験



クリーンキャンペーン

7月28日(金)斜里町と日観協主催の日観協観光地美化キャンペーンが行われました。

当日はあいにくの霧雨でしたが知床五湖と知床峠の2か所に分かれ観光客へゴミ袋を配付しゴミの持ち帰り運動をよびかけ、併せて空き缶や吸い殻等の清掃もおこないました。



知床の森から



北海道森林管理局北見分局 〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町1番地
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>

平成12年 9月 第68号



「ゲラちゃん」

知床森林センターシンボルマーク

知床では少し山に入ればまだクマガラに逢うことができます。

知床は今

斜里町ウトロに向かう国道沿いに咲いていた白い、ノリウツギの花も終わり、街路樹のナナカマドの実が赤く色づいてきた知床に、今年も多くの観光客が訪れている。雄大な自然を求めて観光に来る人、羅臼岳・硫黄山などの登山が目的の人など様々である。今年も知床五湖から知床大橋まで、自然環境保全と渋滞緩和のためシャトルバスを運行し、7月29日から8月20日まで一般車の交通規制が行なわれた。この間に、活火山である知床硫黄山の中腹から温泉が流れ込む、若者に人気のカムイワッカ湯の滝がある。平滑な川床を進んだ上流では、滝壺が天然の露



天風呂になっていて、この時期多くの観光客が訪れる。しかし交通規制が行われたため車の混雑も無く静かで、十分に山の緑や対面するオホーツク海の、マス漁の漁船が浮かぶ青い海を眺め自然を堪能していた。最近では、観光地美化キャンペーンやクリーン作戦などで、ゴミの持ち帰りを呼び掛けたり、個人個人の意識が向上してきたため、空き缶などが公道に投げられていたりすることが少なくなり、道路周辺は奇麗である。しかしキツネなどに出会うと食べものを与えたり、食べ残しを捨てるために、キツネやクマが人を見ると餌をもらえろと思われ観光客で賑わう知床五湖周辺や、国道に出没しねだったりする。ヒグマは大変危険な動物であり、動物に接する場合かわいからと餌を与えたりゴミを捨てたりしないよう、自然に対するマナーを心掛け楽しい知床の旅をして頂きたい。



ブユニ岬からウトロ港を望む



ポンホロ沼で「オタマガエル」発見?

7月7日(金)、斜里町立宇登呂小中学校の自然体験学習が行われ、その一部として当センターから職員を派遣し森林教室を開催しました。

宇登呂小中学校では、毎年、自然体験学習を実施しており、今年は国有林内のポンホロ沼と自然観察教育林をコースとしました。

知床横断道路沿いでバスを降りた中学1年

生22名と引率の教諭4名は当センター職員の案内で林内へと入って行きました。

コース内では、森林インストラクターから、枯れた木を土に戻すキノコの役割、ミズナラやトドマツでは種の形や散布する方法が違うこと、また、熊が冬眠する穴のことなど、森林の生態系についての説明があり、生徒の皆さんは熱心に聞いていました。

生徒たちはポンホロ沼の水辺でカエルになり



熱心に説明を聞く中学生

たてのまだ尻尾が残っているエゾアカガエルの群れを見つけ、それを「オタマガエル」と名づけました。

ポンホロ沼から自然観察教育林に入り急な坂を下ると幌別川に出ます。幌別川のほとりで昼食を取り、中には水遊びを楽しむ生徒たちも。そこからエゾユズリハの群生地を通り、シカのぬた場やトドマツの稚樹を見ながら帰途につきました。



「知床硫黄山新噴火口登山と植物観察」

8月24日(木)に第53回森林レクリエーション・in知床『知床硫黄山新噴火口登山と植物観察』が開催されました。

今回のイベントは、真夏の青い空と紺碧のオホーツクブルーの海を見おろし、今なお噴気活動の続いている新噴火口への登山です。

当日の天候は、青空が広がる晴れた登山日和となり、参加者は北見市、網走市、津別町等から24名が参加しました。

知床森林センターを出発したバスは、一路知床半島へと向かい、車内で山の歩き方、山でのマナーと注意事項、熊に会った時の対処方法などについて説明を行いながら登山道入口に到着し、いよいよ登山の開始です。

コースは、硫黄山新噴火口までの登山で、スタートから急な登りが始まり、参加者はゆっくりと息を整えながら慎重に足を運びました。周囲は樹木のトンネルでミズナラ・ミヤマハンノキ・ダケカンバの低い木が覆い被さり、木陰の中を心地良くうっすらと汗をかきながら登りました。途中、シラタマノキの可愛い白い実が参加者の目を和ませ、知床硫黄山の硫黄採掘の歴史、森林浴は心身に良いこと、ミズナラやハイマツ等登山道沿いの樹について解説がありまし



オホーツク海のパノラマに歓声

た。コースの半分程を歩くと景色は開け、右手眼下にはカムイワッカの沢、振り返れば紺碧のオホーツク海の雄大さに、しばしの登りの辛さも忘れ参加者みなさんは眼前に広がるオホーツク海のパノラマに胸を躍らせました。コース終盤には堆積する岩の塊を四肢を使って登る箇所もあり、スリルを味わいながら歩きました。ここからは山の様子が変わりハイマツやミヤマハンノキ・ダケカンバの背が低くなり視界が開け、足元に注意しながら火山礫が堆積するガレ場を慎重に登りきり新噴火口へ到着。新噴火口は過去の激しい噴火が稜線の西側の一角を吹き飛ばし、巨大な鍬で削り取ったような形になり、水蒸気をあげています。流す汗を拭きながら昼食をした後、周囲を散策したり噴火口を覗いたり一時の休憩を楽しみ、新噴火口で記念撮影をした後下山を開始し、目の前に広がるオホーツク海を望みながら無事に登山道入口に到着しました。

今日の天候は最後まで晴天で、みなさんも満足し充実をしていた様子でした。



新噴火口で記念撮影